

令和元年度 第3回 社会教育委員会議 会議録

■日時

令和元年8月30日(金)午後1時30分から3時50分まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- | | | | |
|---------|---------|--------|------------|
| ・清水 眞理子 | ・上村 卓三 | ・白畑 丈子 | ・高鍋 房美 |
| ・吉川 博文 | ・尾崎 麻由美 | ・谷 譲二 | ・堀内 保寛 |
| ・村上 栄 | ・瓦 俊夫 | ・網野 俊賢 | (欠席：田中 智美) |

■出席事務局職員

- ・教育長：川村 智
- ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1 開会

吉川委員長

- 前回の会議から約2か月で、京都アニメーションの事件、あおり運転問題、九州での大雨洪水など、様々な出来事が起こっている。
- 午前中、青少年健全育成協議会の標語の選考委員会があった。全体的に見て、標語の中に、あいさつ、笑顔が多くあった。あいさつは人と人を結びつける第一歩となる。社会教育の課題も含めて、あいさつと笑顔で取り組んでいきたい。

2 教育長あいさつ

川村教育長

- 10月15日告示、10月20日投票の町長選挙が行われる。8月9日に木村町長不出馬の表明があった。4期16年勤め、高齢化、新しい風を入れるというようなことをおっしゃって表明された。
- 今日には管外研修の振り返りなどを聞かせていただく。

3 議事

(1) 管外研修の振り返りについて

- ・ 7月4日（木）京都府社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会

村上委員

- 講演は和歌山大学の村田和子教授の「学びでつながる地域づくり」。今地域づくりがキーワードになっている。地域学校協働本部事業の参考になった
- 意見交流は4人一組で地域の取組について交流した。人集めが難しいというのは同じで、それぞれに課題がある。事務局がしっかりしたスタンスをもってやらないと社会教育関係は難しいという話があった。

瓦委員

- 意見交流では、社会教育事業への参加者を集めることが難しい課題であるとの話があった。子供向け、高齢者は集まりやすいが、現役世代は忙しくて集まらない。そこで学校を考えると、地域の方や高齢者がいろいろな方で関わっていただいており、子どもの保護者という現役世代もいる。学校は地域のことを考えるキーポイントとなるとの話をした。

網野委員

- 意見交換では公民館の話となり、公民館の果たす役割について、勉強させていただいた。公民館は地域の資源のひとつであるが、そこに人が集まらない、お金がない、過疎化など、悩みが多くて、悩みの交換会というようになった。

吉川委員長

- 講演では、あと20年経つと半分が高齢者であり、人生100年時代の到来である。ささえていく、元気な高齢者が必要となっていくと言われていた。
- 生涯学習への期待の話もあり、人と人が交わるということ、生涯学習が生きがいにつながっていくとの話があった。後半は地域づくりと生涯学習の話が多かった。
- 意見交換では前向きな話が多く、班だけで話が終わるのが残念だった。

(2) 令和元年度全国社会教育研究大会 兼 近畿地区社会教育研究大会

10月24日（木）～25日（金）、神戸市ポートピアホテルにて開催。

- 出席者と交通手段を確認した。田中委員は後日確認する。

出席者：24日のみ 清水、上村、白畑、高鍋、吉川、尾崎、網野委員

24・25日 村上委員（生涯学習課・河西）

集合：24日 午前8時20分にJR祝園駅改札前集合、25日各自

(3) その他

- 10月8日、やましろ未来っ子まなび体験活動サポーター研修。
- せいか舎に「せいか音頭」の動画精華町のホームページに掲載。
- 図書不法投棄事件について、8月27日に被害届を提出。
- せいか健康・スポーツ交流フェスティバルを10月14日体育の日に開催。
社会教育委員としての分担の仕事は特になし。
- 東京2020オリンピックの啓発として、ピンバッチを配布。
- 青少年育成協会相楽連絡協議会第50回記念相楽小学生ソフトボール大会にて、精華町代表が優勝した。
- 11月3日、せいかマラソン開催。
- 9月16日、けいはんなサイクルレース開催。

4. 研修（社会教育委員の活動等発表 第2回）

(1) 高鍋副委員長「社会教育委員になって」

- 平成10年から社会教育委員を務めている。子ども4人の子育てが終わり、声をかけてもらった。食育劇団もぐもぐ、スクールサポーター、子育て地域パートナー、ファミリーサポーターの活動を行っている。
- 多くの研修、講演会、実践報告に参加して今思うのは、まず、絆・おせっかいの大切さである。平和主義が生んだ「事なかれ主義」が広がっている。ハラズメントは、その人によって違う。「髪切った？」がセクハラと言われ、黙ってしまう。
- 大切なこと・本当の問題点の優先順位は、事件が起きた時、被害者を守ることと加害者を作らないことである。
- 例えば、京都アニメーションの放火事件では、建物の危険性などが報道されていたが、犯人を育ててしまった社会が問題ではないか。
- 昔は井戸端会議で近所の情報が共有されていた。今は個人情報を出しているとか人権侵害と言われるため黙ってしまう。不登校についても昔なら学級会で話し合いがされていた。それで「朝迎えに行きましょう」と対応していた。今は学校にクレームが来るのではないか。正しいことをする人を守ってあげないといけないのに、みんなうつむいてしまう。
- 例えば幼児虐待にしても、悲しい結果を迎えたときに児童相談所の人から謝っていることがあるが、本当にあの人から謝らないといけないのか。対応している人数が件数からしたら大変多い。対応しきれないこともある。何事につけ、誰が責任を負うかが正しい事をする大きな壁になっているのではないか。
- 縦割り社会と個人情報の扱いの難しさがあり、システム的に進んでいると思う

のだが、逆に進まない。

- 居場所づくりが必要で、自分が必要とされる場所が一番居心地がいい。
- 母がデイサービスに行っているが、お年寄り扱いであることに違和感を感じているようだ。テレビではデイサービスで内職をして収入を得ている、それで若返っているという高齢者が紹介されていた。年齢でなくできることがあることが大切である。
- 自分がどんな社会で生きていきたいか、そのためにどんなことができるかを、それぞれの人が考え、正しいことをしている人、頑張った人が責められることのない社会になればと思う。

(2) 清水委員

- 精華町の山田で生まれ育ち、山田荘小学校、精華中学校でお世話になった。
- 当時は田舎がとても嫌いで、京都市内の高校、市内で就職した。縁があって柘榴へ嫁入りし、家業の建設会社の手伝い、姑の世話、住み込みの職員や子どもの世話を追われた。子ども3人に恵まれ、保護者会やPTAを引き受けたことがきっかけで、学校だけでなく、地域で協力することの大切さを知った。
- 京都府女性の船に参加し、府内で参加された方15人でグループ編成で意見交換を行い、同じ京都でも南と北での違いがわかり、視野を広げたこと、知らなかったことを知れたことで成果を感じた。当時の大崎町長に報告したら、「その分を役に立てて精華町でも活動してください」と言われたことから、当時教育委員会主催で初めて開催された家庭教育学級に参加し、男女協働参画の委員や審議委員などに参加させてもらい、大きな経験や知識となった。
- 行政の活動に自分の意志で参加するのは大事である。できることをできるときにする。地域の婦人防火連合会では、阪神淡路大震災が起こった時、8日後夙川へボランティアで訪れた。避難場所、トイレの問題、お年寄りの問題、ヘリコプターがうるさい、臭いが大変など、報道でわからない問題があった。豚汁をふるまったのが重要な体験であり、今でも活動に役立っている。
- 社会教育委員としては今年で17年目。当初委員は退職校長がほとんどだった。山田荘婦人会の会長任期が終わって声をかけてもらった。
- 当時子どもが元気で健康で学業に励める学校生活を過ごすにはということで見直され、精華町でも健康推進計画や食育推進基本計画方針ができた。あすなろ会で食の大切さを伝えられたらと、あたたかい豚汁を提供したり、食育調理実習や親子の食育調理実習を行ったりした。今でも続いている。
- 社会教育委員として、一番大変だったのは提言である。保護者アンケートを集計し、話し合い、文字にして、町長に提言するのは難しかった。
- 日頃考えていることは、社会教育委員ということをお頭において接し、笑顔であいさつをすること。ラジオ体操にも夏休み参加し、声掛けをしている。言葉は魔物、宝物であり、言い方ひとつで印象も変わる。携帯やスマホで連絡

を取り合うと、コミュニケーションを取れているか心配である。

- 小学校で「あいうえお」を習うが、「あ」は明るく元気、健康、「い」は自分の意思を持つ、「う」は運、自分自身がどう生きるか、「え」はえにし、人とのおつきあい、「お」は恩、常に感謝の気持ちを持つことであると、子どもたちに伝えている。

(3) 上村委員

- 現在ほど社会教育の重要性を痛感する時はない。私の場合、地域社会とのかかわりが重要である。
- 私自身の社会とのかかわりとして、ひとつは京都山城ロータリークラブである。家族のきずな作文発表会を行っており、今年で9年目である。今では京都府知事賞をいただくようになり、今年は募集総数が4,000通ぐらいになると思われる。
- 家族のきずな作文発表事業では、特に道徳性が社会からものすごく低下していると感じ、親孝行は非常に大事だと考えて始めた。また東日本大震災が発生し、家族の写真を求めて探しておられたという報道も見た。家族のきずなと同時に命の大事さを考えて来なかった自分を反省した。
- もうひとつは公益財団法人モラロジーである。毎月祝園ニューモラル講演会を行っている。昭和27年に父が精華中学校体育館完成時に体育館で講演した際には450名の参加と大盛況だった。
- あとひとつは個人事業で、株式会社トラデッシュ酔月の会長として、会場の提供と利益の一部を奉仕の原資に充当させていただいている。
- 今、地域のつながりが希薄となっている。教育学者・武蔵野大学教授貝塚茂樹先生は今の子どもたちは自分が社会とつながっているという意識が極端に不足していると言われている。周辺の国と比べても低いとのことである。共に生きる共生の思想が必要で、これこそが社会教育の原点であろう。
- 社会教育委員として、真摯な努力、特に社会奉仕活動が、社会に向けて人として最高の善事であろうと自負して行っている。

(4) 村上委員「地域学校協働本部の設立に関わって」

- 定年退職後、家業の農業を専業で行っていたが、そのときに声をかけてもらい社会教育委員となった。2年の間、体調不良、父親の急逝があり、自分を見つめなおす期間となった。
- 社会教育委員として地域に貢献できることを考え、サロンや秋祭りを立ち上げた先輩の支援をしていこうと考えている。また今年度から南山城村に地域学校協働本部事業を立ちあげてほしいとの話があり、嘱託職員として働いている。
- 地域学校協働本部事業は社会教育としても注目されているので、笠置町が先進的に取り組まれている事例を少し紹介する。学校支援地域本部事業があり、プ

ラス京のまなび教室事業、家庭教育支援基盤形成事業の3つをうまく取り組んで、地域全体、笠置町全体で子供や学校支援という仕組みを作られた。地域の人材を学校の社会科や生活科など学校の授業で生かして行っている。児童数は少ないので、ほとんどの子どもが放課後児童クラブに入り、かさぎ・まなび塾というまなび教室も入り、指導者の指導の元、すばらしい体験を日々している。家庭教育では、ほっとサロンという子育て真っ最中のお母さんと赤ちゃんを支援しようという取り組みがあり、月1回のサロンでいろいろな悩みを先輩のおばあちゃん世代に相談している。福祉関係も一緒に入っている。

- こういった取り組みを南山城村でも考えていこうとしている。「Ya!まなびClub」というまなび体験教室の運営では、児童クラブと連携しながら行っている。参加は少なく、まだ5分の1ぐらいの参加である。笠置町は小学校1校だけで、地域の力が結束されている。南山城村は4小学校あり各地域の思いがあり、組織づくりもしっかりと考えていく必要がある。
- 精華中学校コミュニティスクール運営委員としての取組もある。まず地域、そして社会教育委員としてしっかり活動していきたい。

●次回発表担当は、谷委員、堀内委員、瓦委員に決定。

●次回日程は、令和元年11月25日（月）13時30分～。

◎閉会のあいさつ

高鍋副委員長

- 7月25日に子ども議会に参加した。子どもたちが町のために自分たちができること、大人しかできないことをしっかりと認識し、具体的な対策を持っていた。「今の子どもたちは」とひとくくりにしないで、がんばろうとしている子どもたちを見ていきたいと感じた。

5 閉会